

## 第2章 いじめの未然防止

### 3 「道徳」を通して（小学校編）

#### 1 「考え、議論する道徳」への転換

これまでの「道徳」は、読み物の登場人物の気持ちを読み取ることで終わってしまっていたり、「いじめは許されない」ということを児童に言わせたり書かせたりするだけの授業になりがちだと言われてきた。

現実のいじめの問題に対応できる資質・能力を育むためには、「自分ならどうするか」という観点から道徳的な価値と向き合い、自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、議論していく「考え、議論する道徳」へと転換することが求められている。

#### 2 「道徳」の授業の工夫

道徳の授業でいじめについて考えることは、いじめを未然に防ぐこと、仮に発生したときに児童が自分たちで解決する力をつけることにつながる。いじめについて具体的事例をもとに深く考え、議論する授業が求められる。例えば、

- ・どのようなことが、いじめになるのか。
- ・なぜ、いじめが起こるのか。
- ・なぜ、いじめはしてはいけないのか。
- ・なぜ、いじめはいけないと分かっているにもかかわらず、止められないのか。
- ・どうやって、いじめを防ぐこと、解決することができるのか。
- ・いじめにより生じた結果について、どのような責任を負わなくてはならないのか。

といったことについて、自分のこととして考え、議論して学ぶことが大切である。

具体例を扱う場合には、児童の発達段階を踏まえた資料を工夫し、実際にいじめに関係しそうな児童がいる場合には、その心情に配慮することも必要である。

#### 3 「考え、議論する道徳」の取組例

##### (1) 仲間外れや不公平をしないよさを学ぶ授業

教材：「およげないりすさん」（対象：低学年、B13「公正、公平、社会正義」）

〈問題場面〉

かめ・あひる・はくちょうは、池の中の島へ泳いで遊びに行こうとする。泳げないりすから「いっしょにつれて行ってね。」と頼まれるが断って行ってしまふ。

児童が物語の世界に入り込み、登場人物に自分を投影して考えられるようにする。

泳げないことを理由に仲間外れにしてしまったことに気付かせる。

本時の内容項目を想起させ、自分のこととして捉えられるようにする。

指導の構想

導入	○事前に実施した「仲間外れ」や「不公平」に関するアンケートの結果を基に、問題意識を高める。  ○教師が、黒板に、登場人物の絵を掲示しながら物語を読む。
展開	1 「りすさんは、だめ。」と言った時のかめ・あひる・はくちょうの気持ちを考える。

ひとりぼっちのりすの気持ちを考えさせ、仲間外れはいじめであることを確認する。	展開	2 りすの気持ちを考える。 ・ひとりぼっちでさみしい。 ・しょんぼりした気持ち。
どうして楽しくないのか考えさせ、助け合うことの大切さや、公正、公平に接するよさを児童から引き出す。		◎池の中の島で遊んでいるかめ・あひる・はくちょうの気持ちを、役割演技を通して考える。 ・あまり楽しくないね。 ・りすさんはどうしているかな。
導入で示したアンケートを掲示し、自分の行動を振り返る手掛かりとさせる。	まとめ	○これまでの自分を振り返る。

## (2) よりよい友人関係を築くためにどんなことが大切か考えを深める授業

教材：「知らない間の出来事」(対象：高学年 B 9「友情・信頼」)

### 〈問題場面〉

主人公のみかが友達に「転校生のあゆみが携帯電話を持っていない」と伝えたら、「前の学校で仲間外れにされていた」と歪曲して伝言されてしまう。



メールの文章を例示し、自分の経験を想起させる。

### 指導の構想

導入	○メールやSNSで、友達とのやりとりがうまくできなかったことを思い出す。
展開	1 自分のことがメールで流されたことを知った時のあゆみの気持ちを考える。 2 なぜ、このような出来事が起きたのか、みかの立場で考える。 ・みかが勝手な推測をメールに書かなければよかった。 ・勝手に内容を変えた人にも原因がある。 ・仲良くなろうと、すぐに話し掛けることができてすごい。 ◎みかがどのように自分の気持ちを伝えたらよいか、役割演技を通して考える。
まとめ	○友達との付き合い方で大切なことを考える。 ・友達のことを考えて行動する。 ・直接、自分の思いを伝える。

転校して不安な気持ちを抱えているあゆみの気持ちを想像させる。

みかの行動だけが原因なのか、他に原因はないか話し合わせる。

みかの行動を批判するだけでなく、みかのよいところにも注目させる。

実際に話す活動を通して、自分の考えを深めさせる。

授業を通して学んだことを自分の言葉で表現し、実際の生活に生かすようにする。

※参考引用資料：「道徳の質的転換によるいじめの防止について」(H28.11.18 文部科学省)

「道徳教育アーカイブ 文部科学省HP」<https://doutoku.mext.go.jp/>

- 児童が自分自身の生活や行動を振り返ることができるよう導入やまとめを工夫したり、互いの気持ちや考えを聞き合うことができるよう話し合いの場を設定したりする。
- 低学年においては、「してはならないことがある」ことをまず理解させるようにする。中・高学年では、そうした理解を前提に、葛藤や衝突のある場面で「同調圧力に流されてしまう弱さ」、「寛大な心をもって他人の過ちを許す大切さ」などを学ぶようにする。
- 特別な支援が必要な児童も含め、一人一人の個性を受け入れ、集団としての高みを目指すことの大切さを「道徳」の授業を通して感じられるようにする。